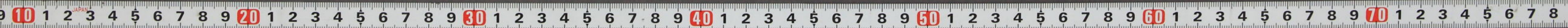
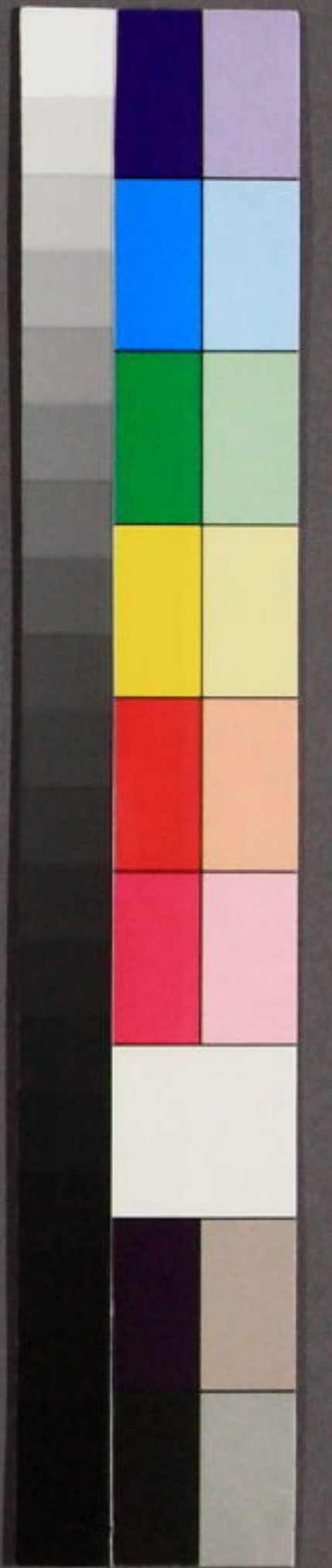


心三位柿下朝臣入磨

圖心三位朝臣入磨
無文三所治定



三位橋本朝臣磨

圖心隆信朝臣隨
無文、而治定



蝸盧藏

左

橋本朝臣

此朝臣、名朝文、字朝臣、
其父朝臣、名朝臣、
其母朝臣、名朝臣、
其妻朝臣、名朝臣、
其子朝臣、名朝臣、
其女朝臣、名朝臣、
其孫朝臣、名朝臣、
其曾孫朝臣、名朝臣、
其玄孫朝臣、名朝臣、
其高孫朝臣、名朝臣、
其天孫朝臣、名朝臣、
其地孫朝臣、名朝臣、
其人孫朝臣、名朝臣、
其神孫朝臣、名朝臣、
其祖朝臣、名朝臣、
其父朝臣、名朝臣、
其母朝臣、名朝臣、
其妻朝臣、名朝臣、
其子朝臣、名朝臣、
其女朝臣、名朝臣、
其孫朝臣、名朝臣、
其曾孫朝臣、名朝臣、
其玄孫朝臣、名朝臣、
其高孫朝臣、名朝臣、
其天孫朝臣、名朝臣、
其地孫朝臣、名朝臣、
其人孫朝臣、名朝臣、
其神孫朝臣、名朝臣、

大納言經信

佐有初教中納言道方子
即大納言氏朝臣
始於郭曲琵琶和琴連
八十二大宰權師云、
俊賴之父也

右 大納言經信

此朝臣、名經信、字經信、
其父朝臣、名朝臣、
其母朝臣、名朝臣、
其妻朝臣、名朝臣、
其子朝臣、名朝臣、
其女朝臣、名朝臣、
其孫朝臣、名朝臣、
其曾孫朝臣、名朝臣、
其玄孫朝臣、名朝臣、
其高孫朝臣、名朝臣、
其天孫朝臣、名朝臣、
其地孫朝臣、名朝臣、
其人孫朝臣、名朝臣、
其神孫朝臣、名朝臣、
其祖朝臣、名朝臣、
其父朝臣、名朝臣、
其母朝臣、名朝臣、
其妻朝臣、名朝臣、
其子朝臣、名朝臣、
其女朝臣、名朝臣、
其孫朝臣、名朝臣、
其曾孫朝臣、名朝臣、
其玄孫朝臣、名朝臣、
其高孫朝臣、名朝臣、
其天孫朝臣、名朝臣、
其地孫朝臣、名朝臣、
其人孫朝臣、名朝臣、
其神孫朝臣、名朝臣、



山邊赤人

作老部族不知官位
信實者一二十秋仙
五恒有



右 大船と信
名は船つり田乃と云ふも信て
あつての事物や上秋海を吹
長の代つりてと云ふも信の
あつての事物や上秋海を吹
あつての事物や上秋海を吹

大納言經信

作老部族中納言通方子
即大納言氏部
祐方那由琵琶和基運
八十二大守権師云々
俊頼之父也



山邊赤人

作者赤松山知官位
信實言一二十秋仙
五位上



法性寺入道

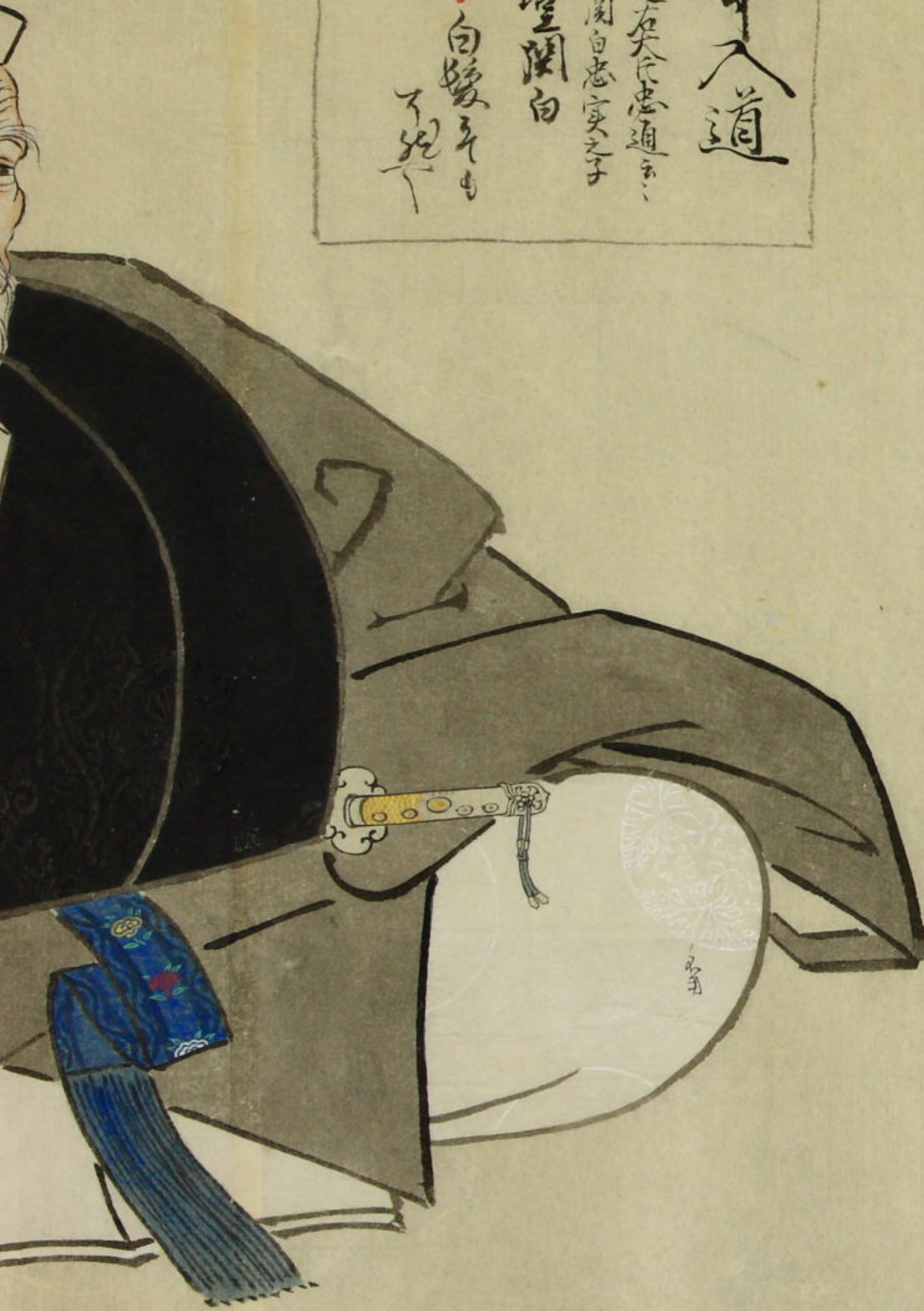
あまのりりらあまのりりら
あまのりりらあまのりりら
あまのりりらあまのりりら
あまのりりらあまのりりら
あまのりりらあまのりりら
あまのりりらあまのりりら
あまのりりらあまのりりら
あまのりりらあまのりりら
あまのりりらあまのりりら
あまのりりらあまのりりら



法性寺入道

法性寺入道在任忠通子
富家入道関白忠実之子
号法堂関白

白髮年也
不詳



左 法性寺
 ああういふは法性寺に
 此の寺は法性寺に
 法性寺に法性寺に
 法性寺に法性寺に
 法性寺に法性寺に

法性寺入道

法性寺入道在任忠通
 高家入道関白忠実の子
 号法堂関白
 白髪年
 不詳

右 法性寺入道前関白
 法性寺に法性寺に
 法性寺に法性寺に
 法性寺に法性寺に
 法性寺に法性寺に
 法性寺に法性寺に



中納言後三位家持

大納言権人男鎮守将
 將軍

正徳二年九月

中納言後三任家持

中納言後三任家持

大納言掾人男鎮守将軍

正曆二十九年

り吉地の子
平治元年
元治元年
文治元年

左 中納言家持
松ののり吉地の子
平治元年
元治元年
文治元年



中納言國信

六条右大臣家房
四男

衣 世絶圖伝

春見舞上扇わくまをん上
新南みゆの春のむらじり
何日福とせしに明れ
こし
山流まはらむらしむれはる
あつはる冠のむらじり

泰議堂

作志詔親冬溪等母
三子

左 冬溪詔親

詔親東山流のむらじり
入つたむらじり
あひまをあまの別をむらじり
回すの能むらじり
むらじり
むらじり

西行法師

作志詔親 教位康清子
信名則清
元名名位



西行法師

作之能影 教位藤清子
作之別清
元名分位



右 西行法師

西行法師の
坐する椅子
の形は
此の如し
と云ふ
事あり
云々

中納言行平

阿保親王子

寛平五年七月十二

御衣の
白

そりし
なり



寛平五年六月廿七日
阿保親王の御
御座り候御時
御座り候御時
御座り候御時

中納言行平

阿保親王の子
寛平五年七月十二
御座り候御時
御座り候御時

左 中納言行平
御座り候御時
御座り候御時
御座り候御時

皇太后宮大夫 俊成

二位 九上 賢治 八人



阿保親王の御
御座り候御時
御座り候御時
御座り候御時

けい
平

六 白身居士大德
年八十餘年位高才重
二 師承 禪宗 宗 師
三 師承 禪宗 宗 師
世 道 宗 師 宗 師
師 承 禪 宗 宗 師

大僧三遍照

大僧言每世ハ男意元大原ガ子
藏人頭トシテ純少後宗貞
先也 寛正二入滅七十一
仁和元年十月修金通照ヲ召テ
七十等ヲ留シ至シテ七十五死

左 修金通照
ハ世ノ乃モ高僧トシテ
ハ世ノ乃モ高僧トシテ
ハ世ノ乃モ高僧トシテ
ハ世ノ乃モ高僧トシテ



前大僧正慈真

法性寺教皇
号吉水高
本名慈真
寛保九入滅七十一

前大僧正慈真

法性寺殿是也 本名慈真
号吉水齋
和歌九入歳七十一



右 前大僧正慈真

慈真公は和歌九入歳七十一
法性寺殿是也 本名慈真
号吉水齋
和歌九入歳七十一

小野小町

右羽織部司女
仁明清和女
人
新装
信實歌仙之通

山文
濃方
布治

左 小町町

小町町は和歌九入歳七十一
法性寺殿是也 本名慈真
号吉水齋
和歌九入歳七十一



Handwritten notes in the top right corner, including the name 'Shimada' (島田).

小野小町

右羽織部 司女
仁明清和女
新装
信實歌仙之通

左 小町町

Handwritten notes in the top middle section, likely describing the character or scene.

漫二位家隆

右 正三位家隆
Handwritten notes in the top left corner.



山文
濃方
和治

後二位家隆

右五位家隆

下位家隆は、
藤原氏の
松平氏の
松平氏の
松平氏の



后四位上在原朝臣

業平

左 在京業平

朝臣の
朝臣の
朝臣の
朝臣の
朝臣の

藤原敏行の船

平治元年十一月二日
藤原敏行の船
白く二つを
紫衣を
下着を

大 藤原敏行

舟の
尾上
舟上
舟上

圓秋院丹後

右 圓秋院丹後

馬
舟
舟
舟



伴勢

信文四年平六
黒通たり
年手更
了

尾 任邊

阿比...
尾...
二...
...
...

藤原清輔

...
...
...



元 恒時

河上公の御孫の御孫
藤原氏の御孫の御孫
藤原氏の御孫の御孫
藤原氏の御孫の御孫
藤原氏の御孫の御孫

藤原清輔

さしゆま白地 胡下
あつちまわしこ
丸くしておろしの
文と印してある

右 藤原信仲

立向御孫の御孫の御孫
立向御孫の御孫の御孫
立向御孫の御孫の御孫
立向御孫の御孫の御孫
立向御孫の御孫の御孫

元良親王

左 元良親王

花乃兵衛の御孫の御孫
花乃兵衛の御孫の御孫
花乃兵衛の御孫の御孫
花乃兵衛の御孫の御孫
花乃兵衛の御孫の御孫



わが山崎の法門の如く
此の法門の如く
法門の如く
法門の如く

律師憲性

左 憲性律師

今もこの法門の如く
今もこの法門の如く
今もこの法門の如く
今もこの法門の如く



右 律師憲性

大井門の法門の如く
大井門の法門の如く
大井門の法門の如く
大井門の法門の如く

顯季

三位源隆文

将軍の文松

いかに六者の如く
いかに六者の如く
いかに六者の如く
いかに六者の如く

ふて
おれ
おれ

中院右大臣

全宋集卷五十八
古物云推定
古力の拓め
又さく

左 中院右大臣

中院右大臣の御影
中院右大臣の御影
中院右大臣の御影

醍醐帝

醍醐天皇
号 延喜天皇

左 延喜

延喜の御影
延喜の御影
延喜の御影



中院右大臣

醍醐天皇
御宇
御年
御事

醍醐帝

淳和仁厚天皇
早死

左
安
記

醍醐天皇
御宇
御年
御事



淳和性存

下
御
事
の
後
記

法性寺

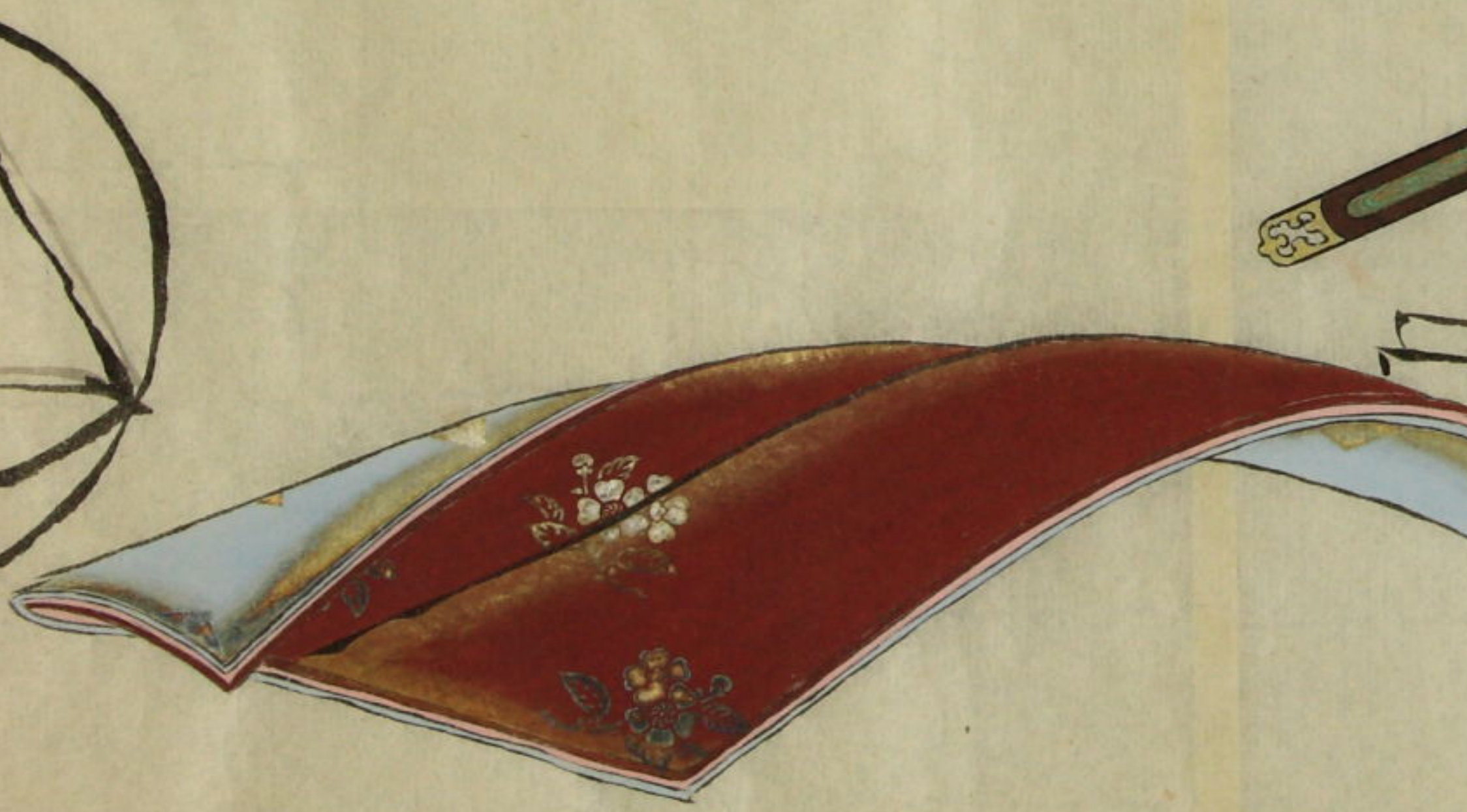
下野の夜籠

右は法性寺の夜籠
若し野の夜籠
法性寺の夜籠
法性寺の夜籠
法性寺の夜籠
法性寺の夜籠

平貞文

左 平貞文

平貞文の夜籠
平貞文の夜籠
平貞文の夜籠
平貞文の夜籠
平貞文の夜籠



平貞文の肖像

平貞文

左 平貞文

権左衛門尉平貞文
源朝臣貞文の孫
清和天皇の御代
平家朝臣の御代
平家朝臣の御代
平家朝臣の御代



重家

三位大貳

平家朝臣重家
平家朝臣重家



重家

三位大貳

重家ノ御名ノ
御名ノ

重家ノ御名ノ
御名ノ
御名ノ
御名ノ
御名ノ
御名ノ
御名ノ
御名ノ
御名ノ
御名ノ

中納言藤原

魚浦

若キ人加文小サク

重家ノ文行有
ゴランニテ可也
限ハシ



Handwritten notes in the top right corner, including the name '藤原' (Fujiwara).

中納言藤原

魚捕

若キ人故文小サク

重衣ノ文竹首
ゴフニテ可也
源氏ノ

左は納言魚捕
みく、秋の季の...
李乃松風吹...
右は...
英の...
い...

権中納言俊忠

右は仲納言俊忠

Handwritten notes in the top left corner, including the name '俊忠' (Tsunetada).



記の文...
ゴフニ

左 中納言俊忠

みづの波のあかりまじりし
李乃松の影やわすれし
右後白河のふかき
まの影をいかに
いかにみよしとて

権中納言俊忠

右 後白河の俊忠

いかにみよしとて
いかにみよしとて
いかにみよしとて
いかにみよしとて

大内記友則

右 大内記友則

左 大内記友則

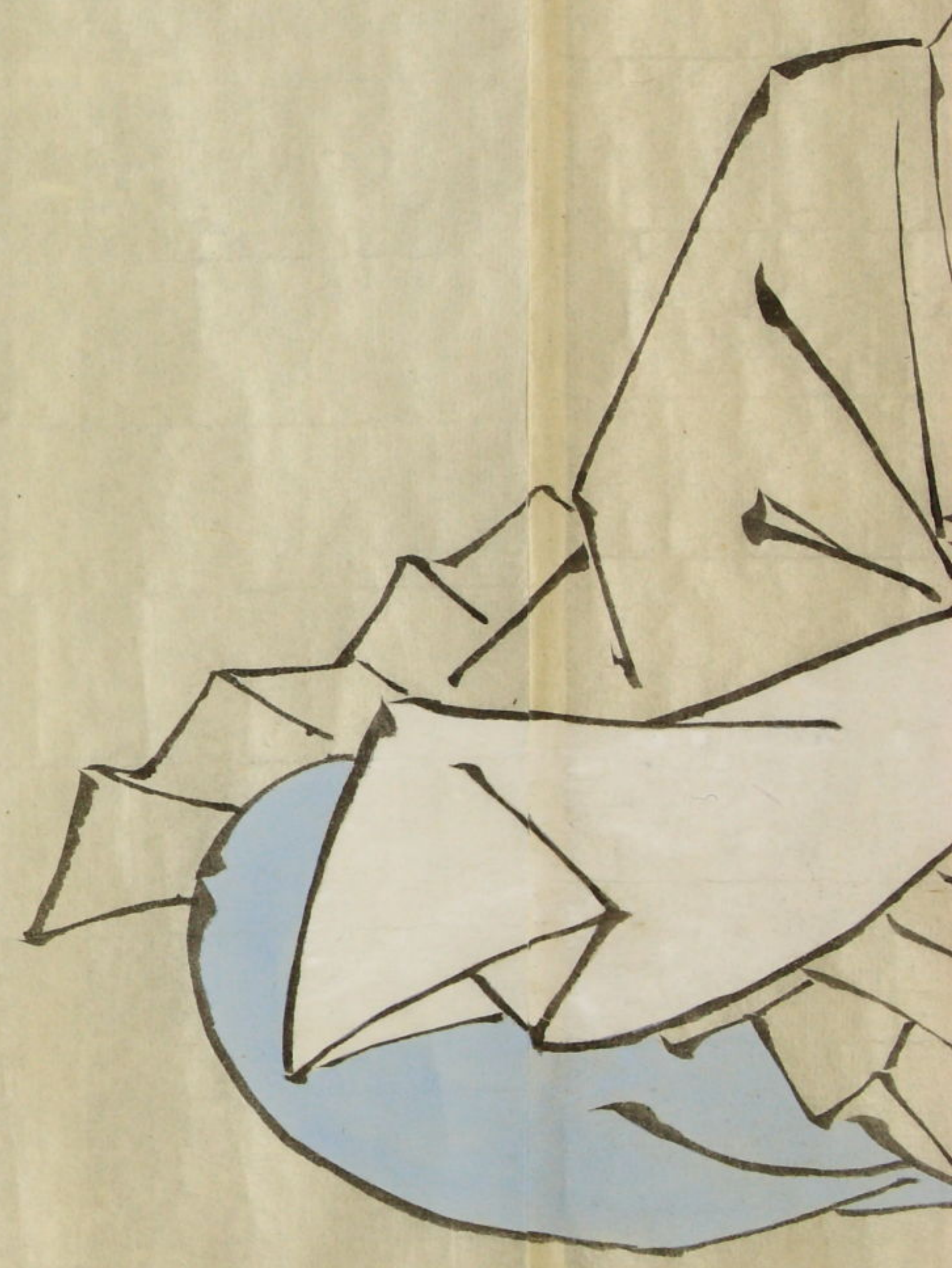
いかにみよしとて
いかにみよしとて
いかにみよしとて
いかにみよしとて



良暹法師

良暹法師
此卷之經
乃春之元
修心之要
今以此卷
奉獻於
諸君





時代不同
主速藤保珠

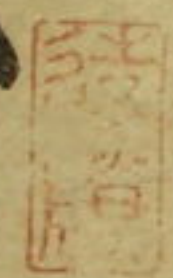
時代不同
主速藤保珠

藤保珠

時代不同



四番



卷一

主速藤保珠

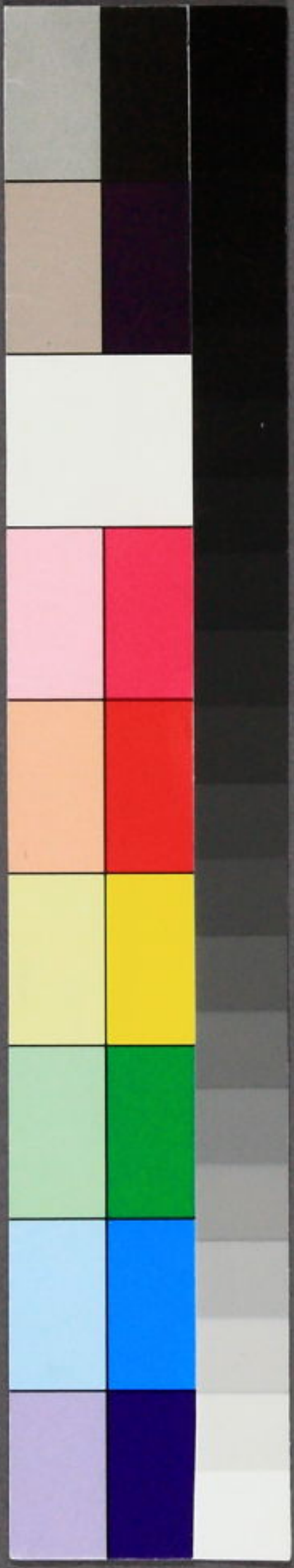
插圖C
F. / .
時代不同
大阪市立博物館

301

特別
子4
6345
1

2/2





藤
 不
 同
 一
 同

2/2

特別
子4
6345
1



猿蓑藏

時代不同

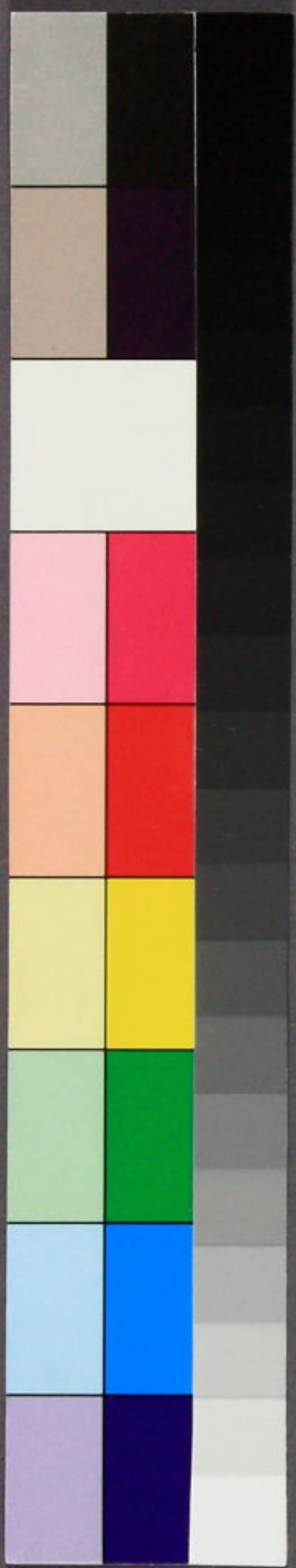
四卷

四書入

301

猪飼C
F. / .
時代不同
大阪市立博物館

特別
子4
6345
1-4



文政三年

庚申

寫

古致

弘化二年己九月上旬

欣